

教理研究院

サンクチュアリ教会およびUCIを支持する人々の言説の誤り(20)

UCI(いわゆる「郭グループ」)を支持する人々は、金鍾奭著「統一教会の分裂」の日本語訳を広めてきましたが、この書籍は、み言改竄や事実歪曲により、真のお母様をおとしめる内容に満ちています。今回は、「統一教会の分裂」が「文仁進米国会長任命事件」と呼ぶ、真のご家庭の三女・文仁進様が真のお父様の指示により家庭連合の米国会長に就任した経緯およびその真相を明らかにし、この書籍がいかに、虚偽に満ちたものであるかを説明します。

なお、これらの内容を総合的に理解し把握するためには、「真の父母様宣布文サイト (http://trueparents.jp/)」の掲載文や映像をごらんください。

教理研究院

注、真の父母様のみ言および家庭連合の公式発表は「青い字」で、UCI側の主張は「茶色の字」で区別しています。

二十四、いわゆる「文仁進様の米国会長任命事件」の真相
次のように述べています。

二〇〇八年七月二十九日、文仁進様は、家庭連合の「米国会長」としての人事発令を受け、同年八月十四日に「米国会議長」就任式がニューヨークのマンハッタンセンターで行われました。これに対して、金鍾奭著『統一教会の分裂』は、「文仁進

始者と文顯進の間を完全に引き裂き、代わりに文亨進を後継者の座に立てる決定的名分」(107ページ)となった。仁進様の「米国会長」の任命には、「文顯進反対勢力が文顯進を追い出す為に展開するドラマのような過程」(同)があった。

真の父母様宣布文サイトはこちらから↓



「文仁進米国会長任命事件」とは「人事権を握った文亨進が、創始者(注、お父様)の指示を無視」(120ページ)して、「米国会議長であった文顯進の地位を剥奪し、代わりに文仁進を米国会長に発令」(同)した事件である。この事件は「創

始者と文顯進の間を完全に引き裂き、代わりに文亨進を後継者の座に立てる決定的名分」(107ページ)となった。仁進様の「米国会長」の任命には、「文顯進反対勢力が文顯進を追い出す為に展開するドラマのような過程」(同)があった。

会長任命事件」とは、亨進様が二〇〇八年七月二十九日に創始者の意思とは無関係に文仁進を米国会長として発令」(142ページ)したことを言う。

しかしながら、この記述は、事実と反する。虚偽の主張にほかなりません。二〇〇八年七月二十九日付の家庭連合世界本部の韓国語公文には、次のように書かれています。

「二〇〇八年七月二十九日、真の父母様の指示により米国会長に対する人事発令(新規)をお知らせします」(注、翻訳は教理研究院による)

そして、その公文の英語版では次のようになっています。

「This is to announce the appointment of the Chairperson of the Unification Movement in America according to True Parents instructions given on July 29,

2008」

家庭連合世界本部の公文を見れば、文仁進様は「二〇〇八年七月二十九日、真の父母様の指示」によって人事発令を受けています。したがって、「文亨進

は、二〇〇八年七月二十九日に創始者の意思とは無関係に文仁進を米国会長として発令」したという「統一教会の分裂」の主張は、事実と反するものです。

世界本部の韓国語の公文には「米国会長」として発令されたと書かれており、英語公文には「Chairperson of the Unification Movement in America」とあります。また、その公文の中で、仁進様の所属(Location)は「FFWPU International」すなわち家庭

連合の「世界本部」となっています。したがって、仁進様は家庭連合の「世界本部」の所屬でありながらも、米国の家庭連合内の「Chairperson of

二〇〇八年七月二十九日、文亨進様は「文仁進を米国会長に発令する人事公文を全世界の統一教会組織に発送」(120ページ)した。「亨進様の名前で発送された韓国語公文には、仁進様の職責が米国家庭連合総会長として発表されたが、英語公文には米国統一運動の責任を負うチェアマンとして発表」(120ページ脚注)され、同年八月十四日に「文仁進の米国会議長就任式」(123ページ)が挙行された。韓国の月刊誌『統一世界』二〇〇八年九月号の記事には「文亨進世界会長によって去る七月二十九日、米国会長として人事発令を受けた文仁進の就任式が八月十四日、...挙行された」と記述しています。しかし、実際の『統一世界』二〇〇八年九月号の記事は「真の父母様の指示によって去る七月二十九日、米国会長として発令を受けた文仁進様家庭の就任式が八月十四日、...挙行された」(注、

「統一教会の分裂」は、UCI側が主張する、いわゆる「文仁進米国会長任命事件」について、次のように述べます。

「創始者の意思とは無関係に文仁進を米国会長として発令した」という虚偽

「統一教会の分裂」は、UCI側が主張する、いわゆる「文仁進米国会長任命事件」について、次のように述べます。

「Chairperson of the Unification Movement in America」を日本語に訳すならば、「アメリカ国内の(家庭連合における)統一運動の総会長」となります。

家庭連合世界本部の英語公文では、家庭連合の「米国会長」を「Chairperson of the Unification Movement in America」と表記しているの

あり、その意味は「アメリカ国内の(家庭連合における)統一運動の総会長」というものです。ところが、『統一教会の分裂』は、韓国語公文も英語公文も同じ内容であるにもかかわらず、仁進様の人事発令が、韓国語公文では「米国家庭連合総会長」として発表され、英語公文では「米国統一運動の責任を負うチェ

翻訳は教理研究院による)と なっています。「文亨進世界会長によって」ではなく、「真の父母様の指示によって」というのが実際の文章であるにもかかわらず、引用文を書き換えて掲載しているのです。これは、完全に改竄行為です。

このように、『統一教会の分裂』は、家庭連合世界本部の公文に書かれた「真の父母様の指示」という文言を隠蔽するだけでなく、韓国の月刊誌『統一世界』の記事も「真の父母様の指示によって」という部分を「文亨進世界会長によって」と書き換えることで、「創始者の意思とは無関係に文仁進を米国総会長として発令」したという虚偽のストーリーを描いているのです。

(2)「米国総会長であった文仁進の地位を剥奪し、代わりに文仁進を米国総会長に発令」したという虚偽

『統一教会の分裂』は、亨進様が「米国総会長であった文仁進の地位を剥奪」したとして、次のように述べます。

真のお父様は二〇〇五年一月初め頃、「文顯進、文國進、文亨進の三人の息子に対する責任」(120ページ)を明確にされ、顯進様は二〇〇八年七月頃まで「北米と南米に対する責任」(同)を負っていた。当時の米国には、「全体の責任を負う大陸会長がおり、その上に文顯進が実質的な責任者の役割を遂行」(120ページ脚注)していた。しかし、二〇〇八年七月二十九日、亨進様は、「米国総会長であった文顯進の地位を剥奪し、代わりに文仁進を米国総会長に発令」した。

二〇〇八年九月十四日(秋夕)、顯進様は「真のお父様から」米国総会長は文顯進であり、文仁進は祝司長(牧師)であるという確答を受け、その内容は

文亨進に通知」(128ページ)した。しかし、亨進様は「最後まで創始者の指示を拒否」(同)した。お父様は「二〇〇九年三月八日のいわゆる『東草霊界メッセージ事件』の時点で、米

国総会長が文顯進であると思っていた」(同)のである。以上の内容は、事実を歪曲して述べているものです。二〇〇九年三月八日、いわゆる「東草メッセージ事件」のときに梁昌植氏が読み上げた「報告書」は「訓母様の報告書」としてマルスム選集609巻123ページに記録されています。これは、梁昌植氏が真のお父様からの指示事項を整理した「報告書」であり、それをお父様に提出してチェックを受けた文書です。それは「真の子女様の使命に対する真の父母様のみ言整理報告書」であり、お父様のみ言です。

梁昌植氏の「二〇〇九年三月八日、東草報告書」には、顯進

様の認識は、「南北米事業とUCI傘下ワシントンタイムズ、トゥルーワールドなど各種摂理機関を総括指揮」する立場での「米国総会長」です。お父様は、顯進様の使命に関して梁氏がまとめた「報告書」の内容を聞かれ、「外的だ、外的、そうだ」(9ページ)と語っておられるように、顯進様は家庭連合以外の「外的」な「各種摂理機関を総括指揮」する「米国統一運動の責任を負うチェアマン」という認識を持っておられます。すなわち、顯進様に対するお父様の認識は、家庭連合以外の「米

国統一運動の責任を負うチェアマン」であり、それは「外的」な「米国総会長」ということです。それに対し、「米国総会長」としての仁進様に関する真のお父様の認識は、「祝司長として米国家庭連合に対する総括責任」の立場です。すなわち、仁進様は「米国家庭連合のCEO」として

家庭連合に対する人事権と財政権」を持ち、「アメリカ国内の(家庭連合における)統一運動の総会長」の立場であり、それは「祝司長」という内的な「米国総会長」です。

『統一教会の分裂』は、二〇〇八年七月二十九日、亨進様が仁進様を「米国統一運動の責任を負うチェアマン」として「米国総会長に発令」し、「米国総会長であった文顯進の地位を剥奪」したのだと述べていますが、このような主張は「米国総会長」としての顯進様と仁進様の責任に関する、真のお父様の認識とは食い違っており、事実に対するものです。

二〇〇八年八月十四日、仁進様は、家庭連合以外の「各種摂理機関を総括指揮」する「米

国統一運動の責任を負うチェアマン」として「外的」な「米国総会長」に就任されたのではなく、あくまでも「アメリカ国内の(家庭連合における)統一運

動の総会長」である「祝司長」という内的な「米国総会長」として就任されたのです。

『統一教会の分裂』は、真のお父様が「二〇〇九年三月八日いわゆる『東草霊界メッセージ事件』の時点で、米国総会長が文顯進であると思っていた」と述べていますが、お父様は「南北米事業とUCI傘下ワシントンタイムズ、トゥルーワールドなど各種摂理機関を総括指揮」する立場の「外的」な「米国総会長が文顯進」であると思っておられたのです。

それゆえ、「文仁進を米国総会長に発令」したことが「米国総会長であった文顯進の地位を剥奪」したというのは、事実上反する虚偽の主張にほかなりません。

(3)亨進様は「文顯進に米国総会長職の発令をしなかった」という虚偽

様や仁進様の使命に関する真のお父様のみ言が次のように記されています。

「顯進様は米国の総会長として南北米事業とUCI傘下ワシントンタイムズ、トゥルーワールドなど各種摂理機関を総括指揮します。顯進様は特にワシントンタイムズおよびUPIなど報道機関を総括し米国運動の外的拡散」(9ページ)

「仁進様は真の家庭で初めて任命を受けた祝司長として米国家庭連合に対する総括責任……家庭連合のCEOとして家庭連合に対する人事権と財政権を持って文亨進世界総会長の指示を受け(る)」(9、10ページ)

この梁氏の「報告書」を見ると、米国における顯進様と仁進様の「米国総会長」としての責任に関する内容がそれぞれ異なっているのが分かります。

すなわち、「米国総会長」としての顯進様に対する真のお父様の認識は、「報告書」を見るうなストーリーで、亨進様が「文顯進に米国総会長職の発令をしなかった」と述べています。

真のお父様は、二〇〇九年二月の中頃に韓国に戻られ、二月二十日の訓読会で「韓国は亨進が責任を持ち、日本の国は國進が責任を持ち、米国は顯進が責任を持つ」(141ページ)と語られた。このように、お父様は「二〇〇九年二月十五日、二十日など続けて……三兄弟の責任分野を言及する中で、米国は文顯進が責任を持たなければならぬ」(143ページ)ときき、米国総会長は文顯進(141ページ)であることを明確にされた。

真のお父様は、「二日続けて訓読会でこのような人事措置について言及し続けた。文國進は即時その翌日に日本に出国し、その日に日本総会長は任導淳から……宋榮錫に交替した。文顯進は米国で消息を聞いて公式的

な通知を待ったが、一週間経っても何の発表もなかった」(143ページ)。結局、亨進様は「文顯進に米国総会長職の発令をしなかった」(同)のである。しかし、「世界宣教本部」から二月二十四日付で公文が発送されたが、そこには「文亨進が組織上創始者の代身者であり、文顯進の上司であることを明示する図表」(145ページ)があった。これは、「文仁進の報告を伝え聞いた宣教本部側で文顯進を意識し急遽、作った公文」(同)にすぎない。やはり、真のお父様の「指示が今度も守られるわけがなかった」(142ページ)のである。

しかしながら、これらの内容も事実と反する、虚偽のストーリーです。『統一教会の分裂』は、真のお父様が國進様に「二〇〇九年二月十五日」の訓読会で「日本の国は國進が責任」を持つと語られて「人事措置」を

され、國進様は「その翌日(二月十六日)に日本に出国」したのだと述べています。しかし、二〇〇九年二月十七日付の「世界宣教本部」(当時)の公文によれば、同年二月十六日に真の父母様の願いを受けて、日本の全国祝福家庭総連合会総会長の離任がありました。それは、國進様に対する人事措置ではありません。しかも、その日付は「二月十五日」ではなく、「二月十六日」です。

二〇〇九年二月十九日午後四時から東京・渋谷の松濤本部の礼拝堂で、全国祝福家庭総連合会総会長の離任式が執り行われ、任導淳氏から宋榮錫氏に交替しました。國進様は日本の総会長の離任式のために二月十七日、日本に出国されたのであって、「その翌日(二月十六日)」ではありません。

また、マルスム選集607巻には二〇〇九年一月二十四日から二月十六日までの真のお父様

実にそぐわない、虚偽の主張にほかなりません。

『統一教会の分裂』は、二〇〇九年二月二十二日、当時、米大陸会長であった金炳和氏が金孝律補佐官(当時)に送った書信で、「米国ではお父様が最近語られた内容に従い、顯進様が教会を含み全ての統一運動の責任を任された」(145ページ脚注)と述べていますが、真のお父様が顯進様に対し「教会を含み全ての統一運動の責任」としての米国総会長の「人事措置」をされた事実はありません。教会における「米国家庭連合のCEOとして家庭連合に対する人事権と財政権」を持ち、「アメリカ国内の(家庭連合における)統一運動の総会長」「祝司長」としての内的な「米国総会長」は、仁進様なのです。よって、亨進様が「文顯進に米国総会長職の発令をしなかった」というのは当然のことなのです。二〇〇九年二月二十四日付の

世界宣教本部(当時)から「全世界の組織に関する真の父母様の特別指示の件」と題して公文が発せられました。

『統一教会の分裂』は、それを「宣教本部側で文顯進を意識し急遽、作った公文」だと述べています。しかし、その公文には「二〇〇九年二月二十三日、真の父母様の特別指示により下記のように全世界の全ての組織に対する主管を明確にしようと思います」(翻訳は教理研究院による、以下同じ)と明記されているように、「宣教本部側で文顯進を意識し急遽、作った公文」などではありません。その公文は「真の父母様の特別指示」によるものです。

さらに、『統一教会の分裂』は、その公文の内容について「文亨進が組織上創始者の代身者であり、文顯進の上司であることを明示する図表」があると述べていますが、その公文には、次のような図と説明がなされて

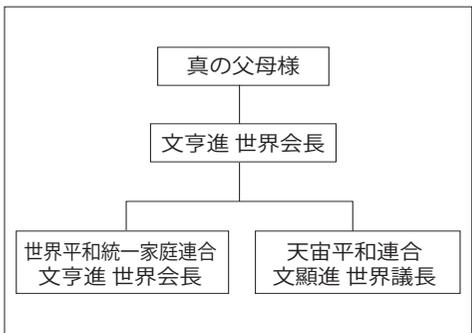
のみ言が収録されていますが、二月十五日の訓読会のみ言は収録されていません。二月十三日当時、真の父母様はハワイに滞在しておられ、二月十五日に真の父母様はハワイから韓国に移動されました。翌十六日には真の父母様の「帰国歓迎集会」が韓国の天正宮博物館で開催され、同日、真の父母様の特別指示により日本の総会長を祝福してくださいだったのでした。

『統一教会の分裂』は、真のお父様が「二〇〇九年二月十五日」の訓読会で「三兄弟の責任分野を言及」され「日本の国は國進が責任」を持つと語られ、國進様に対する「人事措置」をされたことと述べますが、二月十五日の訓読会のみ言はなく、これは虚偽の主張です。さらに「その日(二月十五日)に日本総会長は任導淳から……宋榮錫に交替」し、「その翌日」の十六日に國進様が「日本に出国」したというのも、事実とは異なる

います。

「全ての組織は真の父母様の指示を受け、文亨進世界会長が総括する。あわせて、世界基督教統一神霊協会と世界平和統一家庭連合などの教会組織は、文亨進世界会長が主管し、天宙平和連合は文顯進世界議長が主管する」

「すべての指導者たちは別の大陸の国で行事や大会を開催する場合、まず、世界宣教本部に報告し承認を受けた後、実施するようにする」



2009年2月24日付の公文の図表

る、虚偽の主張」です。よって、「二〇〇九年二月十五日」の訓読会で、真のお父様が「韓国は亨進が責任を持ち、日本の国は國進が責任を持ち、米国は顯進が責任を持つ」と語られた事実はなく、三兄弟に対する「人事措置」もしてられません。

また、『統一教会の分裂』は、真のお父様が「二〇〇九年二月二十日」の訓読会で「米国総会長」として、文顯進様に言及されたことと述べますが、これは前述したように「外的」な「各種摂理機関を総括指揮」する立場である「米国総会長」としての顯進様について言及しておられる内容です。つまり、改めて顯進様に対し「人事措置」を行う必要などありません。したがって、お父様が顯進様に対して米国総会長の「人事措置」をされたにもかかわらず、「亨進様は」文顯進に米国総会長職の発令をしなかった」と述べることは、事

このように、二〇〇九年二月二十四日付の公文の図表は、「文亨進が組織上創始者の代身者」を明示する図表ではなく、全ての組織は「真の父母様の指示を受け、文亨進世界会長が総括する」という立場を明確にしている図表です。

さらに、これは、亨進様が「文顯進の上司」という「上下の関係」を示した図表なのではなく、「教会組織は文亨進世界会長が主管」し、「天宙平和連合は文顯進世界議長が主管」するということを表したものである。併列の関係を示している図表です。

『統一教会の分裂』は、真のお父様の「指示が今度も守られるわけがなかった」と述べていますが、上記の公文は「真の父母様の特別指示」によるものです。

ところが、顯進様は、このような「真の父母様の特別指示」

に對して「非常に不快な気分を現わし、職権で米国統一教会理事會を召集」(145ページ)するに至ったのだと『統一教会の分裂』は述べています。

以上のように、仁進様の「米国総會長」への任命は、いわゆる「文仁進米国総會長任命事件」というものではありません。

『統一教会の分裂』は、いわゆる「文仁進米国総會長任命事件」を、「人事権を握った文亨進が、創始者の指示を無視」して、「米国総會長であった文顯進の地位を剥奪し、代わりに文仁進を米国総會長に発令」した事件であると述べますが、その主張はみ

言の改竄や事実隠蔽に基づく虚偽の主張^{ごん}なのです。

米国家庭連合元會長であるマイケル・ジェンキンス氏の二〇一〇年七月一日の「報告書」によれば、顯進様が「真のお母様と兄弟たちが真のお父様の指示をコントロールしている」と語っていたことを報告していま

す。さらに、『統一教会の分裂』も、「文顯進は母・韓鶴子と二人の弟、即ち文國進及び文亨進と葛藤している」(123ページ)と述べています。

このように、顯進様は、亨進様が世界會長を務める世界宣教本部(当時)から出される「真の父母様の特別指示」の公文に對し、それは自分に対する母と弟たちの「陰謀」であるとの猜疑心から来る不信感を強く持っていたのです。

すなわち、世界宣教本部から出た二〇〇九年二月二十四日付の公文である「真の父母様の特別指示」に對し、顯進様は「非常に不快な気分」であったというのです。それで、顯進様は「米国教会理事會」の構成員を、自分の意に従う人間へと変更することを強行しようとする大事件(米国教会理事會乗っ取り未遂事件)を引き起こしていったのです。真のお父様は、次のように語っておられます。

「皆さんは直接神様と通ずる道がないので、先生が橋を架けてあげています。…ですから公文を重要視し、本部で送る発刊物を重要視せよという話もするのです」(『牧会者の道』393ページ)

「真の父母様の特別指示」は、家庭連合世界本部の公文を通じて伝達されています。また、真のお父様は「蕩滅復帰の峠を越えましょう」というみ言の中で、「すべて問題は中心者と一つになることです。その人の教えとによって蕩滅されるのです。…神様解放まで行くには、真の父母と共に、その蕩滅の道を行かなければならないのです」(『男性訪韓修練會御言集』213(214ページ)と語っておられます。お父様の願いが公文を通じて伝達されても、顯進様はそれに対する猜疑心を持っており、それが顯進様の行く道を

難しくしたものと云えます。私たちは、神様を解放するために、常に真の父母様と共にみ旨を歩むことを心掛け、そのためには、真の父母様のみ言や公文を重要視しながら生活していかなければなりません。

『統一教会の分裂』は公文の内容等について、顯進様にとつて都合の悪いことは、真のお父様の指示であつたとしても、そうではないかのように事実をねじ曲げて、虚偽のストーリーを述べています。このように、真の父母様をないがしろにし、「真の父母」を不信させようとする『統一教会の分裂』の記載内容には十分に注意し、それに決して惑わされてはなりません。私たちは、家庭連合の「公文を重要視し、本部で送る発刊物を重要視」しながら、天の父母様(神様)、真の父母様と一つになつて「ビジョン二〇二〇」の勝利に向けて邁進していきましよう。